

2008年7月8日

タツタ システム・エレクトロニクス株式会社

## 入退室ゲート、顔認証を連携させた入退室管理システムを開発 ー0.5秒で本人認証、ウォークスルーな環境を実現ー

タツタ システム・エレクトロニクス株式会社(以下:タツタ システム・エレクトロニクス)は、大日本印刷株式会社(以下:DNP)および株式会社芝電子システムズ(以下:芝電子システムズ)と共同で、なりすましを防止し、ウォークスルー感覚で運用できる IC カードを利用した入退室管理システムを開発しました。

### 【背景】

近年、オフィスやイベント会場などのセキュリティ対策として、入退室管理についてさまざまなセキュリティ機器やシステムが導入されています。しかし、ID 証と入退室ゲートの場合、ID 証の貸与などによる本人のなりすましの可能性があります。指や手のひらの静脈の生体認証による本人認証システムは、セキュリティ性が高く、確実な本人認証が可能ですが、利用者は一旦立ち止まって操作をするため、多くの社員が出入りするオフィスでは、必ずしも利用しやすい環境ではありませんでした。また、カメラだけによる顔認証の場合、通行する者が顔を伏せた時など、カメラは“ヒト”と認証できないケースがあります。今回、DNP、タツタ システム・エレクトロニクス、芝電子システムズの3社は、IC カードの ID 証と入退室ゲートおよび顔認証システムを連携させることで、より確実な本人認証と、スムーズな入退室が可能な入退室管理システムを共同開発しました。

### 【本システムの特長】

#### ■高セキュリティでウォークスルーなセキュリティ環境を実現

本システムでは、ID 証と入退室ゲート、顔認証システムに搭載された以下の情報がすべて一致することで、利用者は入退室することができます。

ID 証 : ID 情報と顔画像データ  
顔認証システム : ID 情報と顔画像データ  
入退室ゲート : ID 情報

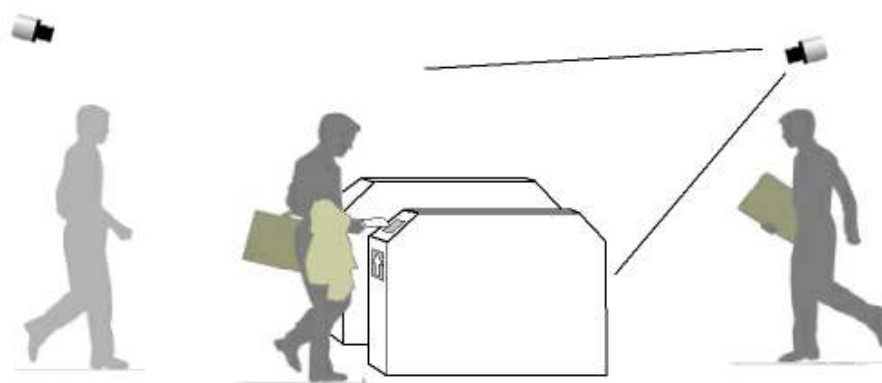
#### <入退室までの流れ>

- ・ カメラで撮影された利用者の顔画像と、顔認証システムに搭載された情報を照合。
- ・ 入退室ゲートに顔認証システムの情報を送信。
- ・ 利用者が入退室ゲートに ID 証をかざすことで、ID 証と入退室ゲートの情報を照合し、すべての情報が合致すると入退室ゲートの通過が可能。

本システムは、200 万画素の高解像度メガピクセルカメラを使用しており、ゲートの約 5m 手前で、一度に最大で 5 人の顔を検出、1 人当たり 0.5 秒で識別し、個々の顔認証をすることができます。これらの連携により、利用者はストレスなく入退室できるとともに、管理者側は社員の異動時や社外の

来訪者に対して適切に対応することができます。

また、CRM システムと連動させることで顧客動線調査などマーケティング活動への展開も可能です。



#### ■SSFC(Shared Security Formats Cooperation)によるオフィス機器との連携強化も可能

DNP が監視カメラやオフィス機器メーカーなどと推進する SSFC は、1枚の IC カードで、入退室ゲートや監視カメラ、OA 機器など全ての機器との連携させることで快適で安全なオフィスセキュリティを実現するシステムです。今回の入退室管理システムを SSFC 仕様とすることにより、パソコンやプリンター、ロッカーなどのオフィス機器との連携を図り、よりハイレベルなセキュリティ環境を構築することも可能です。

#### 【価格】

IC カード仕様 ID 証 100 枚、カメラ 2 台、ゲート 1 台およびシステム構築、運営費を含め、約 500 万円。

(保守、工事費は除く)

本システムの導入期間は 1~2 ヶ月程度です。

大日本印刷株式会社 : 本社:東京 社長:北島義俊 資本金:1,144 億円

タツタ システム・エレクトロニクス株式会社 : 本社:大阪 社長: 橋本和博 資本金:3 億 1000 万円

株式会社芝電子システムズ : 本社:東京 社長: 柴田昌弘 資本金:2500 万円